SAPIX E3SO-0α10 演習問題解説

Section 1

1

1. London is one of the largest city in the world.

- 正解: London is one of the largest **cities** in the world.
- 誤り: city → cities
- 文法解説: 「one of the + 最上級 + 複数名詞」で「最も〜な…の中の 1 つ」を意味します。「いくつか存在する候補の中から 1 つを取り出す」という論理構造になるため、対象となる名詞は必ず複数形（cities）にする必要があります。単数形にすると「1 つしかない中の 1 つ」となり論理的な矛盾が生じます。

2. School begins from eight thirty.

- 正解: School begins **at** eight thirty.
- 誤り: from → at
- 文法解説: 日本語の「8 時 30 分から始まる」という表現につられて from を使いがちですが、英語で「〜時に（開始する）」と特定の一時点を表す場合の前置詞は **at** を用います。from は「〜から（起点）」を表すため、from 8:30 to 15:00（8 時 30 分から 15 時まで）のように期間の起点を示す場合に使います。

3. The sun rises from the east.

- 正解: The sun rises **in** the east.
- 誤り: from → in
- 文法解説: 日本語では「東から日が昇る」と言うため from を連想しがちですが、英語では「東の空・方角において日が昇る」と捉えるため前置詞は **in** を用います。「東に（in the east）」「西に（in the west）」のように、方角を表す表現では in を用いるのが定形表現です。（対義語：The sun sets in the west. 「日は西に沈む」）

4. The house which he lives in was old.

- 正解: The house which he **lived** in was old. （または The house which he lives in **is** old.）
- 誤り: lives と was の時制の不一致
- 文法解説: 主節の動詞が過去形（was）であるのに対し、関係代名詞節内の動詞が現在形（lives）になっており、時制の不一致が起きています。
    - 過去の事実として「彼が住んでいた家は古かった」と言う場合は、関係節内も過去形にして **lived** とします。
    - 現在の事実として「彼が今住んでいる家は古い」と言う場合は、主節の動詞を現在形にして **is** と修正します。

※なお、which he lives/lived in という関係代名詞と前置詞の配置自体は文法的に正しく、in which... や where... に置き換えることも可能です。

5. I'm sorry but I have few money.

- 正解: I'm sorry but I have **little** money.
- 誤り: few → little
- 文法解説: money（お金）は不可算名詞（数えられない名詞）です。数えられない名詞に対して「ほとんど〜ない」という否定的な量を表す場合は **little** を使用します。few は可算名詞（数えられる名詞の複数形、例：few friends, few books）に対してのみ用いられます。
    - few + 可算名詞の複数形（ほとんど〜ない）
    - little + 不可算名詞（ほとんど〜ない）

6. It was stupid for you to do such a thing.

- 正解: It was stupid **of** you to do such a thing.
- 誤り: for → of
- 文法解説: 「It is + 形容詞 + of + 人 + to do」の構文です。通常、to 不定詞の意味上の主語は for + 人 で表しますが、用いられている形容詞が人の性格・性質・配慮・評価（stupid, kind, wise, foolish, careless, polite など）を表す場合、前置詞は for ではなく **of** を使用します。「そんなことをするなんて、あなたは愚かだった」という意味になります。

7. I as well as you were wrong.

- 正解: I as well as you **was** wrong.
- 誤り: were → was
- 文法解説: 「A as well as B」（B だけでなく A も）が主語になる場合、動詞の形は **A**（前にある主語）の人称と数に一致させます。直前の you に引きずられて were にしてしまいがちですが、この文の真の主語の重点は I にあります。したがって、I に合わせて動詞は **was** となります。

8. He used to getting up early.

- 正解: He **used to get** up early. （または He **is used to getting** up early.）
- 誤り: used to の直後の動詞の形（または be 動詞の欠落）
- 文法解説: 表現したい意味に応じて 2 通りの修正が可能です。
    - 「以前はよく早起きしたものだ」（過去の習慣・状態）: used to + 動詞の原形 の形をとるため、getting を原形の **get** に直します。
    - 「彼は早起きすることに慣れている」（現在の状態）: be used to + 動名詞 (-ing)（〜に慣れている）の形をとるため、used の前に **is** を補います。

9. Would you please tell me how far is it from here to the station?

- 正解: Would you please tell me how far **it is** from here to the station?
- 誤り: is it → it is
- 文法解説: 疑問文が他の文の一部（ここでは tell me の目的語）として組み込まれている間接疑問文です。間接疑問文では、疑問詞（how far）の後の語順は「疑問詞 ＋ 主語 ＋ 動詞」という肯定文（平叙文）の語順にする必要があります。直接疑問文の語順（is it）になっているため、主語と動詞を入れ替えて **it is** に修正します。

10. She looked happily when she saw me.

- 正解: She looked **happy** when she saw me.
- 誤り: happily → happy
- 文法解説: 動詞 look が「〜に見える」「〜な顔つきをしている」という意味で使われる場合、第 2 文型（SVC）を作ります。保護（C）の位置には、動詞を修飾する副詞（happily）ではなく、主語の状態を説明する形容詞（happy）を置く必要があります。
    - She (S) looked (V) happy (C). （彼女は嬉しそうに見えた）

※副詞 happily を使うと「彼女は（動作を）幸せそうに行った」となり、意味・文法ともに不適切です。

2

1. I'm not sure if it is fine tomorrow.

- 【正解】 I'm not sure if it **will be** fine tomorrow.
- 【解説】 ここでの if は「もし〜なら」ではなく、「〜かどうか」という意味で名詞節を作っています（「明日晴れるかどうか確信がない」）。 名詞節の中では、「時・条件の副詞節」のルール（未来のことでも現在形で書く）は適用されません。明日のこと（未来）について話しているので、素直に未来形 will be を使います。

2. We'll go on a picnic if it will be fine tomorrow.

- 【正解】 We'll go on a picnic if it **is** fine tomorrow.
- 【解説】 第 1 問と対になる非常に重要な問題です。ここでの if は「もし〜なら」という条件を表す副詞節を作っています。 英語には「時や条件を表す副詞節の中では、未来のことでも現在形を用いる」という絶対的なルールがあります。そのため、tomorrow という未来を表す言葉があっても、動詞は現在形の is にしなければなりません。

3. They will give you some good informations.

- 【正解】 They will give you some good **information**.
- 【解説】 information（情報）は、英語では形のない不可算名詞（数えられない名詞）として扱われます。したがって、複数形の s をつけることは絶対にできません。いくらたくさんの情報であっても、常に information のまま用います。

4. When have you seen her?

- 【正解】 When **did** you **see** her?
- 【解説】 現在完了形（have + 過去分詞）は、「過去から現在までの繋がり（経験・継続・完了）」を表すため、明確な過去の一時点を表す言葉（**yesterday, ago, in 2010** など）や、「いつ？」と明確な過去の時点を尋ねる疑問詞 **When** とは一緒に使えません。単なる過去の出来事を聞くことになるので、過去形にします。

5. He's been swimming in the river since three hours ago.

- 【正解】 He's been swimming in the river **for three hours**.
- 【解説】 since は「〜からずっと」という「出発点（ある過去の一点）」を表す際に使います（例：since 3 o'clock / since yesterday）。 一方、「3 時間」というのは「期間」です。期間を表す場合は **for** を使います。（※口語では since three hours ago と言う人も稀にいますが、標準的な文法規則としては誤りであり、for three hours に直すのが正解です）。

6. He has been to London when he was five.

- 【正解】 He **went** to London when he was five.

- 【解説】 第 4 問と同じ理由です。when he was five（彼が 5 歳の時）という「明確な過去の時点」を表す表現があるため、現在完了形（has been to）を使うことはできません。過去の事実として、過去形 went に直す必要があります。

7. Let's go fishing to the river.

- 【正解】 Let's go fishing **in** the river.
- 【解説】 「川へ釣りに行く」と日本語で考えると方向の to を使いたくなりますが、英語の発想では「川の中（水の中）で釣りをする」と考えます。そのため、場所を表す in を用います。to だと「川という目的地に向かって釣り竿を投げる」ような不自然なニュアンスになってしまいます。

8. I lost my watch somewhere. I have to buy it.

- 【正解】 I lost my watch somewhere. I have to buy **one**.
- 【解説】 代名詞 it は、「特定のもの（失くした時計そのもの）」を指します。もし it を使うと、「失くしたその時計自体を（誰かから）買い戻さなければならない」という意味になってしまいます。 ここでは「（時計という種類の）別の新しいものを買う」という意味なので、不特定の同種のものを示す代名詞 one を使います。

9. What is called this flower in Spanish?

- 【正解】 What **is this flower called** in Spanish? （または How do you say this flower in Spanish?）
- 【解説】 受動態の疑問文の語順の間違いです。元の肯定文は This flower is called X in Spanish.（この花はスペイン語で X と呼ばれます）となります。 疑問文にする時は、be 動詞（is）を主語（this flower）の前に出し、わからない名前の部分を What にして文頭に出します。したがって、What + is + 主語(this flower) + 過去分詞(called) ~? の語順になります。

10. He cut the tree in the garden, doesn't he?

- 【正解】 He cut the tree in the garden, **didn't** he?
- 【解説】 付加疑問文（～ですよね？）の問題ですが、動詞 cut の形に注目する引っかけ問題です。 主語は He（三人称単数）です。もしこの文が「現在形」であれば、動詞には三単現の 's' がついて cuts になるはずです。 s がついていないということは、この **cut** は過去形（**cut - cut - cut** と変化します）であると判断できます。前の文が過去形なので、付加疑問文も過去形の助動詞を使って didn't he? にしなければなりません。

3

第 **1** 問

正解：ウ

- ウの誤りと解説：
  - 誤**:** It is much cooler here than **Tokyo**.
  - 正**:** It is much cooler here than **in Tokyo**.
  - 理由**:** 比較級を使う際、「比較する対象は同じ種類のもので揃える」というルールがあります。この文では「ここ（の気候）」と「東京（の気候）」を比較していますが、「here（ここ）」は副詞的なニュアンスを持つため、単純に名詞の「Tokyo」と比較すると不自然になります。「ここ」と「東京で」を比較するために、**in Tokyo** とするのが正しい形です。
- 他の選択肢：
  - ア: She looks very happy.（彼女はとても幸せそうに見える。）→ look + 形容詞（～に見える）の正しい形です。
  - イ: Let's go skating on the lake.（湖へスケートに行きましょう。）→ go ~ing（～しに行く）の正しい形です。

第 **2** 問

正解：ア

- アの誤りと解説：
  - 誤**:** Lend me a knife if you have **it**.
  - 正**:** Lend me a knife if you have **one**.
  - 理由**:** 代名詞 it と one の使い分けの問題です。it は「前に出た特定のその物ズバリ」を指します。もし it を使うと「（私が言った）その特定のナイフを持っているなら貸して」という意味不明な文になってしまいます。ここでは「（種類は何でもいいから）1 本のナイフ」を指すため、不特定のものを示す代名詞 **one** を使うのが正解です。
- 他の選択肢：
  - イ: Don't be afraid of making mistakes.（間違いを犯すことを恐れないで。）→ be afraid of ~ing の正しい形です。

- ウ: When we arrived there, it began to rain.（私たちがそこへ着いた時、雨が降り始めた。）→ 天候を表す主語の it が正しく使われています。

第 **3** 問

正解：イ

- イの誤りと解説：
  - 誤**:** He usually gets up late **in** Sunday morning.
  - 正**:** He usually gets up late **on** Sunday morning.
  - 理由**:** 時を表す前置詞のルールです。「朝に」と単に言う場合は in the morning となりますが、「日曜日の朝に」のように特定の日の朝・午後・晩を表す場合は、前置詞は **on** を使います。
- 他の選択肢：
  - ア: The doctor I went to see was very kind（私が診てもらいに行った医者はとても親切だった）→ The doctor の後に目的格の関係代名詞（who/whom/that）が省略された正しい形です。
  - ウ: He said that he would come and see me the next day.（彼は翌日私に会いに来ると言った。）→ 時制の一致（said に合わせて will が would になっている）が正しく適用されています。

第 **4** 問

正解：ア

- アの誤りと解説：
  - 誤**:** One of them **are** listening to music on the radio.
  - 正**:** One of them **is** listening to music on the radio.
  - 理由**:** 主語と動詞の一致（単数・複数）の問題です。One of 複数名詞（〜の中の 1 人/1 つ）が主語になる場合、主語の核となるのは One（単数）です。そのため、be 動詞は are ではなく **is** にしなければなりません。
- 他の選択肢：
  - イ: One of them is watching TV.（彼らのうちの 1 人はテレビを見ています。）→ 単数扱いの is が正しく使われています。
  - ウ: Some of them are playing baseball.（彼らのうちの何人かは野球をしています。）→ Some は複数扱いなので are で正しいです。

第 **5** 問

正解：ウ

- ウの誤りと解説：
  - 誤**:** What does your father **has** in his hands?
  - 正**:** What does your father **have** in his hands?
  - 理由**:** 疑問文における動詞の形の問題です。助動詞 does（または do, did）を使った疑問文や否定文では、その後に続く一般動詞は必ず原形にならなければなりません。そのため、has ではなく have となります。
- 他の選択肢：
  - ア: Where is your father?（あなたのお父さんはどこですか。）→ 正しい疑問文です。
  - イ: Who teaches you English?（誰があなたに英語を教えますか。）→ Who が主語（3 人称単数扱い）になっている正しい疑問文です。

第 **6** 問

正解：ウ

- ウの誤りと解説：
  - 誤**:** You have good friends, **aren't you**?
  - 正**:** You have good friends, **don't you**?
  - 理由**:** 付加疑問文（〜ですよね？）の作り方の問題です。前の文が一般動詞（have）の肯定文なので、後ろにくっつける付加疑問は don't you? となります。aren't you? は前の文が You are ~ の時に使います。
- 他の選択肢：
  - ア: It's fine today, isn't it?（今日は晴れですね。）→ be 動詞（is）の付加疑問として正しいです。
  - イ: You can't go there, can you?（あなたはそこに行けませんよね。）→ 助動詞の否定（can't）に対する肯定の付加疑問（can）として正しいです。

第 **7** 問

正解：ア

- アの誤りと解説：
  - 誤: He **has finished** reading the book **just now**.
  - 正: He **finished** reading the book **just now**.
  - 理由: 時制と相性の良い副詞（句）の問題です。just now は「たった今（少し前）」という過去の時点を明確に表す言葉です。過去を表す言葉は「現在完了形（have + 過去分詞）」と一緒に使うことはできず、必ず「過去形」と共に使います。
- 他の選択肢：
  - イ: He finished reading the book just now.（彼はたった今その本を読み終えた。）→ just now と過去形が正しく組み合わされています。
  - ウ: He has just finished reading the book.（彼はちょうどその本を読み終えたところだ。）→ just（ちょうど）は現在完了形の完了用法として正しく使われています。

第 **8** 問

正解：イ

- イの誤りと解説：
  - 誤: She read the book, **doesn't she**?
  - 正: She read the book, **didn't she**?
  - 理由: 動詞 read の時制を見抜く引っかけ問題です。主語が She（3 人称単数）なので、もし現在形なら動詞には s がついて reads となるはずです。s がついていないということは、この read は過去形（発音はレッド）であると判断できます。過去形の文の付加疑問文は didn't she? になります。
- 他の選択肢：
  - ア: You are a student, aren't you?（あなたは学生ですよね。）→ 正しい付加疑問文です。
  - ウ: He can come to the party, can't he?（彼はパーティーに来られますよね。）→ 正しい付加疑問文です。

第 **9** 問

正解：イ

- イの誤りと解説：
  - 誤: Do you know what **is it**?
  - 正: Do you know what **it is**?
  - 理由: 間接疑問文の語順の問題です。文の途中に疑問詞（what, who, when など）が組み込まれる場合、疑問詞の後ろは必ず「主語 ＋ 動詞」の肯定文の語順になります。したがって、疑問文の語順である is it ではなく、it is が正解です。
- 他の選択肢：
  - ア: Do you know who that man is?（あの男の人が誰か知っていますか。）→ who + 主語 + 動詞 の正しい語順です。
  - ウ: Do you know when he will come back?（彼がいつ戻ってくるか知っていますか。）→ when + 主語 + 動詞 の正しい語順です。

第 **10** 問

正解：ウ

- ウの誤りと解説：
  - 誤: She hasn't **already** finished her homework.
  - 正: She hasn't finished her homework **yet**.
  - 理由: 現在完了形における副詞の使い分けの問題です。already（すでに）は基本的に肯定文で使います。否定文で「まだ〜していない」と言いたい場合は、文末に **yet** を用います（※疑問文で「もう〜したか？」と聞く場合も yet を使います）。
- 他の選択肢：
  - ア: She hasn't finished her homework yet.（彼女はまだ宿題を終えていない。）→ 否定文での yet の正しい使い方です。
  - イ: Has she finished her homework yet?（彼女はもう宿題を終えましたか。）→ 疑問文での yet の正しい使い方です。

4

（**A**）の解説

- **1. This water is good to drink.**（正しい）
  - 主語 This water が drink の目的語の役割を果たしています（この水は飲むのに良い）。目的語が主語と一致しているため、drink の後ろに it などを置く必要はありません。
- **2. I am glad to go on a picnic with you.**（正しい）

- 感情を表す形容詞（glad）の直後に置く to 不定詞で、「〜できて嬉しい」という感情の原因を表す副詞的用法です。

- **3. He was too hungry to study for the exam.**（正しい）
  - <too + 形容詞/副詞 + to do>（あまりに〜なので…できない）の正文です。「彼はあまりにお腹が空いていて試験勉強ができなかった」の意味になります。
- **4. This book is too difficult for you to read it.**（誤り）
  - 理由： <too ... for A to do> 構文では、不定詞の目的語が文全体の主語（This book）と同一である場合、末尾の代名詞 it は不要です。
  - 訂正： This book is too difficult for you to read.
- **5. He is enough old to work here with us.**（誤り）
  - 理由： enough が形容詞や副詞を修飾する場合、語順は「形容詞/副詞 ＋ enough ＋ to do」となります。enough を形容詞 old の前に置くのは誤りです。
  - 訂正： He is old enough to work here with us.

（**B**）の解説

- **1. He hoped her to be quiet.**（誤り）
  - 理由： 動詞 hope は <hope + O + to do>（O に〜してほしい）という第 5 文型の構造をとることができません。この意味を表すには want や expect を使うか、that 節を用います。
  - 訂正： He wanted her to be quiet. または He hoped that she would be quiet.
- **2. He said them to go there at once.**（誤り）
  - 理由： 動詞 say は <say + 人 + to do> の形をとることができません。「人に〜するように言う/指示する」という意味では tell を用います。
  - 訂正： He told them to go there at once.
- **3. He asked us not to shut the gate.**（正しい）
  - <ask + O + to do>（O に〜するよう頼む）の否定形 <ask + O + not to do>（O に〜しないよう頼む）の正文です。
- **4. He told me to leave the room.**（正しい）
  - <tell + O + to do>（O に〜するよう言う/命じる）の適切な用法です。
- **5. He wanted us to help him with the work.**（正しい）
  - <want + O + to do>（O に〜してほしい）および <help + 人 + with + 事柄>（人の〜を手伝う）の構造が正しく使われています。

（**C**）の解説

- **1. You have to stop smoking and drinking.**（正しい）
  - stop の目的語に動名詞（-ing）を置くことで「（現在行っていることを）やめる」という意味になります。
- **2. We enjoy to skate on the ice every winter.**（誤り）
  - 理由： 動詞 enjoy は目的語に動名詞（**-ing**）のみをとり、to 不定詞を置くことができません。
  - 訂正： We enjoy skating on the ice every winter.
- **3. He is not good at writing letters in English.**（正しい）
  - 前置詞 at の後ろには名詞または動名詞を置くため、writing となっているのが正答です。
- **4. You should finish to do your homework by five.**（誤り）
  - 理由： 動詞 finish も enjoy と同様に、目的語に動名詞（**-ing**）のみをとり、to 不定詞をとることはできません。
  - 訂正： You should finish doing your homework by five.
- **5. I am thinking of calling on her on my way home.**（正しい）
  - 前置詞 of の後ろに動名詞 calling が置かれており、call on 人（人を訪問する）の熟語も正しく使用されています。

5

(A) の解説

【答】 **4. it → one**

- 解説**:** 代名詞の it と one の使い分けが問われる問題です。 it は「前に出てきたそれ自体（同一物）」を指します。もし buy it と言ってしまうと、「失くした時計そのもの（をどこかで見つけて）買い戻す」という意味になってしまい不自然です。 一方、one は「前に出てきた名詞と同じ種類のもの（同種のもの）」を指します。ここでは「時計という種類のものを新しく買う」という意味なので、one を使うのが正解です。

- 他の文が正しい理由:

1. It is ~ for 人 to do （人が…するのは〜だ）という正しい構文です。

2. ask O to do（O に〜するように頼む）という正しい構文です。

3. too ~ to do（〜すぎて…できない）という正しい構文です。

(B) の解説

【答】 **1. will be → is**

- 解説: 時や条件を表す副詞節（if や when などで始まる文）の中では、未来のことでも現在形を用いるという英語の重要なルールがあります。 「明日忙しい」というのは未来のことですが、if（もし〜なら）という条件を表す節の中にあるため、未来形の will be ではなく現在形の is を使わなければなりません。
- 他の文が正しい理由: 2. スポーツ（tennis）には冠詞がつきませんが、楽器（the piano）には the がつくという正しいルールが守られています。 3. were killed と正しい受動態（態）が使われています。 4. come home（帰宅する）に前置詞は不要であり、正しい表現です。

(C) の解説

【答】 **3. to → for** （または left → gone）

- 解説: 動詞 leave（出発する）の語法についての問題です。「〜へ向けて出発する」と言いたい場合、leave の後ろは前置詞の **for** を使って **leave for ~** と表現します。to を使うのは go to ~（〜へ行く）などの場合です。
- 他の文が正しい理由:

1. stop to do で「〜するために立ち止まる」という意味の正しい表現です。（stop ~ing は「〜するのをやめる」となります）

2. what they did は間接疑問文であり、疑問詞の後ろが「主語＋動詞」の正しい語順になっています。

3. have been ill in bed（病気で寝込んでいる）と since（〜からずっと）を用いた現在完了形の継続用法として正しい文です。

(D) の解説

【答】 **1. did he absent → was he absent** （または did he → was he）

- 解説: absent は通常「欠席して・不在で」という意味の形容詞として使われます。そのため、一般動詞の疑問文で使う did ではなく、be 動詞（ここでは過去形なので was）を使う必要があります。（例：He was absent yesterday.） ※ absent を動詞として使う場合は absent oneself from ~ という形にする必要があり、ここでは当てはまりません。
- 他の文が正しい理由: 2. be known to ~ で「〜に知られている」という正しい熟語です。（by ではなく to を使います） 3. fruit（果物全般）は数えられない名詞（不可算名詞）として扱われるため、複数形の s がつかないこの形で正しいです。 4. finish の後ろの目的語は必ず動名詞（~ing）になるため、writing で正解です。

(E) の解説

【答】 **4. during → while**

- 解説: during と while はどちらも「〜の間に」という意味ですが、品詞が異なります。 **during** は前置詞なので、後ろには名詞（during the summer など）しか置けません。一方、**while** は接続詞なので、後ろに「主語＋動詞（S+V）」の文を置くことができます。 この文では後ろが he was in Australia と主語と動詞が続いているため、接続詞の while に直すのが正解です。
- 他の文が正しい理由:

1. that house of mine（私のあの家）は二重所有格と呼ばれる正しい表現法です。（my that house とは言えません）

2. stop ~ing（〜するのをやめる）という正しい形です。

3. remember to do は「忘れずに（これから）〜する」という意味の正しい表現です。

6

1. She [married] a nice man.

- 誤りの理由: 動詞 marry は「〜と結婚する」という意味の他動詞です。
- 解説: 他動詞は直後に直接目的語（名詞）をとるため、with や to といった前置詞は不要です。したがって married a nice man が正解となります。
- 補足: ただし、受動態や状態を表す熟語として使う場合は She got married to a nice man. や She is married to a nice man. となり to が必要になります。単体の動詞として使う場合は前置詞をとらない「他動詞」であることに注意しましょう。

2. My house [stands] on a hillside.

- 誤りの理由: 建物などが「建っている」という永続的な状態を表す場合、進行形にはしません。

- 解説: 動詞 stand は、人が「立ち上がる」という一時的な動作を表す場合は進行形（is standing）にできます。しかし、家や山などがそこに「ある・位置している」という変わらない状態を表す場合は状態動詞として扱われるため、現在形で表現するのが正しいルールです。主語が My house（三人称単数）なので stands になります。

3. We were taught that the earth [is] round. （○）

- 正解の理由: 「地球は丸い」という事実は不変の真理であるため、常に現在形で表します。
- 解説: 英語には「時制の一致」というルールがあり、主節の動詞（were taught＝過去形）に合わせて、通常は従属節（that の中）の動詞も過去形になります。しかし、ことわざや一般的な事実、不変の真理は時制の一致の例外となり、主節が過去形であっても常に「現在形」を使います。

4. Half of the houses [were destroyed] by the storm.

- 誤りの理由: Half of A（A の半分）が主語の場合、動詞の単数・複数は **A** の部分（**the houses**）に合わせます。
- 解説: the houses は可算名詞（数えられる名詞）の複数形です。その「半分」も当然複数となるため、be 動詞は単数形の was ではなく、複数形の were を使わなければなりません。
- 補足: もし Half of the water [was] spilled.（その水の半分がこぼれた）のように、不可算名詞（数えられない名詞）が続く場合は、単数扱いになるため was で正解となります。

5. Onions [cook] more quickly than we think. （○）

- 正解の理由: 動詞 cook には「料理される、火が通る」という自動詞（能動受動態）の用法があるため、このままで正しい文です。
- 解説: cook は「（人が）〜を料理する」という他動詞としてよく知られていますが、食べ物などを主語にして「料理される、焼ける、煮える」という自動詞としても使われます。このように、形は能動態でありながら受動態のような意味を持つ動詞（他には The book sells well. の sell など）があるのが英語の特徴です。そのため are cooked と受動態にする必要はありません。

Section 2

1

1. (エ Let's) play basketball.

【正解】 エ 【完成した文】 Let's play basketball. （バスケットボールをしましょう。） 【解説】 括弧の後ろに動詞の原形（play）が続いていることがポイントです。「〜しましょう」と提案する表現として、Let's＋ 動詞の原形 が適切です。

- ア Shall：提案する場合は「Shall we ~?」のように主語（we）が必要です。
- イ How about：後ろには名詞や動名詞（~ing）が続くため、「How about playing ~」であれば正解になります。
- ウ Do we：提案の文脈としては不自然です。

2. I like tea (ア better) than coffee.

【正解】 ア 【完成した文】 I like tea better than coffee. （私はコーヒーより紅茶のほうが好きです。）

【解説】 「A より B が好きだ」という比較の表現は like A better than B を使います。文中に比較を表す「than（〜よりも）」があるため、比較級である better が入ります。原級の well や much、very は than と一緒には使えません。

3. My mother has just finished (エ cleaning) the room.

【正解】 エ 【完成した文】 My mother has just finished cleaning the room. （母はちょうど部屋の掃除を終えたところです。） 【解説】 動詞 **finish** は、目的語に動名詞（〜ing）をとる動詞です。「〜し終える」は finish ~ing となります。不定詞（to do）を目的語にとることはできません（いわゆるメガフェプス：MEGAFEPS の "F" に該当します）。

4. We were very noisy in the class, so our teacher told us (エ to stop talking).

【正解】 エ 【完成した文】 We were very noisy in the class, so our teacher told us to stop talking. （私たちは授業中とてもうるさかったので、先生は私たちにおしゃべりをやめるように言いました。） 【解説】 ここには 2 つの重要な文法が含まれています。

1. tell＋ 人 ＋to do：「（人）に〜するように言う」
2. stop ~ing：「〜するのをやめる」（※ stop to do は「〜するために立ち止まる/手を休める」という意味になってしまいます） 「先生が私たちに（tell us）、話すのをやめるように（to stop talking）言った」という構造になるため、エが正解です。

5. John has done it (ア now).

【正解】 ア 【完成した文】 John has done it now. （ジョンは今それをやり終えたところです。） 【解説】 「has done」という現在完了形（完了・結果用法）と一緒に使える時制の副詞を選ぶ問題です。これは消去法で解くのが確実です。

- イ just now（たった今）：日本の学校文法では過去形と一緒に使います。現在完了形とは一緒に使いません。（例: He did it just now.）
- ウ yesterday（昨日）：明らかな過去を表すため、過去形と一緒に使います。
- エ yet（まだ〜ない、もう〜したか）：主に否定文や疑問文で文末に使います。この文は肯定文なので不適切です。 したがって、現在完了形と相性の良い now が入ります。

6. The sun sets (エ in) the west early in winter.

【正解】 エ 【完成した文】 The sun sets in the west early in winter. （冬は太陽が西に沈むのが早い。）

【解説】 方角を表す際、「東から（in the east）」「西へ（in the west）」というように、前置詞には **in** を用います。これは「西という方角の領域に」という空間的な広がりを意識した表現です。set in the west（西に沈む）、rise in the east（東から昇る）はセットで覚えておきましょう。

7. My brother is two years (ウ older than) I.

【正解】 ウ 【完成した文】 My brother is two years older than I. （兄[弟]は私より 2 歳年上です。） 【解説】 「私よりも〜」と 2 者を比較しているので比較級を用います。年齢や身長などの「具体的な差（two years）」を表す言葉は、比較級の直前に置きます。したがって two years older than ~ が正しい語順です。

8. That was all the money (ウ that) I had.

【正解】 ウ 【完成した文】 That was all the money that I had. （それが私の持っているお金のすべてでした。） 【解説】 関係代名詞の問題です。先行詞（all the money）に **all**, every, any, the only, the very, 最上級などがついている場合、関係代名詞は which ではなく **that** を使うのが文法の原則（特別用法）です。

9. (エ Has) he ever made an effort to succeed?

【正解】 エ 【完成した文】 Has he ever made an effort to succeed? （彼は今までに成功するための努力をしたことがありますか？） 【解説】 ever（今までに）や made（make の過去分詞）があることから、現在完了形 Have/Has + 主語 + 過去分詞 ~? の疑問文であることがわかります。主語が「he（三人称単数）」なので、Have ではなく **Has** を使います。

10. I used (イ to have) long hair.

【正解】 イ 【完成した文】 I used to have long hair. （私はかつて長い髪をしていました。） 【解説】 used to + 動詞の原形 で「以前は〜だった（今は違う）」「よく〜したものだ」という過去の習慣や状態を表します。 ※よく似た表現の be used to ~ing（〜することに慣れている）と混同しないように注意しましょう。今回は前に be 動詞 がないため used to do になります。

11. He is (ア so) old that he can't swim.

【正解】 ア 【完成した文】 He is so old that he can't swim. （彼はとても年をとっているので、泳ぐことができません。） 【解説】 後ろの that に注目します。so + 形容詞/副詞 + that + 主語 + 動詞 の構文で「とても〜なので…だ」という意味になります。 ※もし too を使う場合は too old to swim（泳ぐには年をとりすぎている）という形になります。

12. Mary has been (イ in) Japan for three weeks.

【正解】 イ 【完成した文】 Mary has been in Japan for three weeks. （メアリーは 3 週間ずっと日本にいます。） 【解説】 現在完了形の継続用法（ずっと〜している）です。「〜に（滞在して）いる」は have been in ~ で表します。

- ア to：have been to だと「〜へ行ったことがある（経験）」または「〜へ行ってきたところだ（完了）」という意味になってしまい、"for three weeks"（3 週間）という期間の表現と合いません。

13. It is kind (ア of) you to help me with the work.

【正解】 ア 【完成した文】 It is kind of you to help me with the work. （仕事を手伝ってくれるなんて、あなたは親切ですね。） 【解説】 不定詞の文の形です。通常、不定詞の意味上の主語は「for + 人」で表しますが、**kind**（親切な）、**nice**（優しい）、**careless**（不注意な）など、人の性格や性質を表す形容詞が来た場合は It is 形容詞 + of + 人 + to do という形になります。

14. Some of the people (エ I invited) didn't come to the party.

【正解】 エ 【完成した文】 Some of the people I invited didn't come to the party. （私が招待した人のうち何人かは、パーティーに来ませんでした。） 【解説】 関係代名詞の目的格（whom や that）が省略されている形です。 本来は Some of the people [whom I invited] didn't come ですが、目的格の関係代名詞は省略できるため、名詞（the people）の直後に主語＋動詞（I invited）を続けることができます。

- イ whom I invited them：「them」が余計です（関係代名詞が them の代わりをしているため）。
- ウ I was invited：受動態になり「私が招待された」という意味になってしまい文意が通りません。

15. (ウ Do) you mind going to the concert with me?

【正解】 ウ 【完成した文】 Do you mind going to the concert with me? （私と一緒にコンサートに行ってくれませんか？ / 行くのは嫌ですか？） 【解説】 Do you mind ~ing? または Would you mind ~ing? で「〜していただけませんか？」「〜しても構いませんか？」という依頼や許可を求める決まり文句です。（直訳は「〜することを気にしますか？」）。Will, Shall, Can を mind と一緒に用いることはありません。

2

1. He worked ( ) harder than his brother.

【正解】 イ **much** 【和訳】 彼は兄（弟）よりもずっと一生懸命に働いた。 【解説】 ここでは「harder（より一生懸命に）」という比較級を強調する表現が問われています。

- 比較級を強調して「ずっと〜」「はるかに〜」と言いたい場合は、**much**, far, a lot などを使います。
- 「very」は very hard のように原級（普通の形）を強調する場合にしか使えません。
- 「more」は more beautiful のように長い単語の比較級を作るためのもので、すでに比較級になっている harder の前には置けません。

2. A hundred miles ( ) a good distance.

【正解】 ウ **is** 【和訳】 100 マイルはかなりの距離だ。 【解説】 時間・距離・金額・重さなどを表す複数形の名詞は、それを「1 つのまとまった単位」として考える場合、単数扱いになります。

- 100 マイルという距離を「1 つの道のり」として捉えているため、主語が複数形の miles に見えても be 動詞は単数形の **is** を使います。

3. I went ( ) last year.

【正解】 イ **to Tokyo** 【和訳】 私は昨年、東京へ行った。 【解説】 動詞 go は「go to 場所（〜へ行く）」というように、方向や到達点を示す前置詞の **to** と一緒に使います。

- アの in は「〜の中で」、ウの at は「〜で（地点）」を意味するため go には続きません。
- エの for は「leave for（〜に向けて出発する）」などの場合には使いますが、go for Canada とは通常言いません。

4. Let's play soccer ( ) fine tomorrow.

【正解】 ウ **if it is** 【和訳】 もし明日晴れたら、サッカーをしよう。 【解説】 「もし〜なら」という時や条件を表す副詞節の中では、未来のことでも現在形で表すという重要なルールがあります。

- 明日のことですが、条件を示す if の後ろでは will を使わず、現在形の **is** を使います。
- エの when it は、後ろに動詞が抜けているため文法的に成り立ちません（when it is なら文法的には正解になり得ますが、選択肢にありません）。

5. Come to the house ( ) walls are white.

【正解】 ウ **whose** 【和訳】 壁が白い家に来てください。 【解説】 関係代名詞の所有格の問題です。先行詞の the house と後ろの walls の間に「家の壁（the house's walls）」という所有関係が成り立ちます。

- この「〜の」に当たる関係代名詞が **whose** です。
- 先行詞が人でも物（家）でも、所有格には whose を使います。

6. I would like ( ) to your country.

【正解】 エ **to go** 【和訳】 私はあなたの国へ行きたいです。 【解説】 **would like to +** 動詞の原形 で「〜したい（のですが）」という、want to の丁寧な表現になります。

- would like の後ろには不定詞（to ＋ 動詞の原形）が続くため、**to go** が正解です。

7. It's dangerous ( ) you to carry all the chairs alone.

【正解】 イ **for** 【和訳】 あなたが 1 人で全部の椅子を運ぶのは危険です。 【解説】 **It is 〜 for** 人 **to ...** （人が…するのは〜だ） という不定詞の構文です。

- この for は「誰にとって危険なのか」を示す意味上の主語を表します。
- ※ nice, kind, careless などの「人の性質・性格」を表す形容詞がくる場合は for ではなく **of** を使いますが、dangerous（危険な）は事柄に対する評価なので **for** を使います。

8. Today there are very ( ) cows working on the fields.

【正解】 イ **few** 【和訳】 今日、畑で働いている牛はごくわずかしかいない。 【解説】 後ろにある cows は数えられる名詞（可算名詞）の複数形です。

- **very few** で「ごくわずかの〜（ほとんど〜ない）」という意味になります。
- a lot of や some の前に very をつけることはできません。
- much は数えられない名詞（不可算名詞：water や money など）に使うため、ここでは不可です。

9. How ( ) is it from here to your school?

【正解】 ア **far** 【和訳】 ここからあなたの学校まではどれくらいの距離ですか？ 【解説】 距離を尋ねる疑問詞のフレーズは **How far** です。

- How long：時間の長さ（どれくらい長く）
- How much / many：数量（どれくらい多く）

10. ( ) was a strong wind this morning, wasn't there?

【正解】 エ **There** 【和訳】 今朝は強い風が吹いていましたよね？ 【解説】 文末の付加疑問文が「**, wasn't there?**（〜でしたよね？）」となっていることが最大のヒントです。

- 付加疑問文が wasn't there? になるということは、元の文が **There was** 〜 で始まっていなければなりません。「There is/was 〜」で「〜がある/いた（起こった）」という意味になります。

11. ( ) I was staying in London, I visited many museums.

【正解】 ウ **While** 【和訳】 ロンドンに滞在している間、私は多くの博物館を訪れた。 【解説】 「〜している間に」を表す表現ですが、後ろに「I(S) was staying(V)...」という文（節）が続いているため、接続詞である **While** を選びます。

- During も「〜の間に」という意味ですが、これは前置詞なので、後ろには文ではなく名詞（During my stay など）しか置けません。

12. ( ) English spoken in your country?

【正解】 ウ **Is** 【和訳】 あなたの国では英語が話されていますか？ 【解説】 後ろに spoken（speak の過去分詞）があることから、「〜されていますか」という受動態（受け身）の疑問文であると分かります。

- 受動態は「be 動詞 ＋ 過去分詞」で作ります。主語が English（単数）であり、現在の事実を尋ねているので、be 動詞は **Is** を使います。

13. I've never ( ) the town.

【正解】 イ **visited** 【和訳】 私はその町を訪れたことがない。 【解説】 現在完了形（have + 過去分詞）の経験用法です。カッコの直後に the town という名詞（目的語）が前置詞なしで直接きていることに注目します。

- visit は他動詞なので、visit the town（その町を訪れる）のように直接名詞を置けます。
- been や gone を使う場合は、I've never been **to** the town のように前置詞 to が必要です。
- arrive の場合も arrived **at** the town とする必要があります。

14. One of the ladies said ( ) a loud voice, "Watch out!"

【正解】 ウ **in** 【和訳】 婦人たちの 1 人が大声で「気をつけて！」と言った。 【解説】 「大きな声で」は英語で **in a loud voice** と言います。

- 「声で」「言語で（in English など）」のように、情報や言葉を伝える手段・状態を表す際には、前置詞の **in** が使われるのが決まり文句です。

15. Do you know if he ( ) to the party?

【正解】 ア **will come** 【和訳】 彼がパーティーに来るかどうか知っていますか？ 【解説】 ここでの if は「もし〜なら」という条件ではなく、「〜かどうか」という名詞節を作っており、know の目的語になっています。

- 「もし〜なら」の条件節（問 4 のパターン）では未来のことを現在形で書きますが、「〜かどうか」という名詞節の中では、未来のことはそのまま未来形（**will**）で表します。
- パーティーに来るのは未来のことなので、**will come** が正解です。

3

1. Let's go to the party, ( ) we?

正解：イ（**shall**） 完成した文： Let's go to the party, **shall** we? 和訳： 一緒にパーティーに行きましょうか？

【解説】 付加疑問文（文末に付け加えて「〜ですよね？」「〜しませんか？」と確認したり同意を求めたりする表現）のルールを問う問題です。

- 「**Let's** 〜」で始まる文の付加疑問文は、必ず「**shall we?**」 になります。
- 通常の肯定文の場合は、動詞に合わせて「don't you?」や「isn't it?」などの形になりますが、「Let's (Let us)」は「私たち一緒に〜しよう」という勧誘を表す特別な形であるため、勧誘を表す助動詞「shall（〜しましょうか）」を用いて「shall we?」とします。

2. I have lost my pen. Would you lend me ( )?

正解：ウ（**one**） 完成した文： I have lost my pen. Would you lend me **one**? 和訳： ペンをなくしてしまいました。1 本貸していただけませんか？

【解説】 代名詞（it と one の違い）を問う問題です。

- **it** は「特定のもの（前に出てきたまさにそれ自体）」を指します。もしここに it を入れると、「私がなくしたまさにそのペンを貸して」という意味になり、不自然です。
- **one** は「不特定のもの（前に出てきた名詞と同じ種類の別のもの）」を指します。ここでは「（なくしたペンではなく）何でもいいからペンを 1 本」貸してほしいので、**one** が正解になります。

3. This is the hotel ( ) the famous singer used to stay.

正解：ア（**at which**） 完成した文： This is the hotel **at which** the famous singer used to stay. 和訳： これは、その有名な歌手がかつて滞在していたホテルです。

【解説】 関係代名詞と前置詞の組み合わせを問う問題です。

- 後ろの文は「the famous singer used to stay (その有名な歌手がかつて滞在していた)」となっています。
- 「ホテルに滞在する」と言う場合、英語では **stay at the hotel** と前置詞の **at** が必要です。
- 先行詞（修飾される名詞）が「the hotel」であり、元の文が「stay at the hotel」であるため、関係代名詞の which と前置詞の at がくっついて **at which** となります。(関係副詞の **where** 1 語で置き換えることも可能です)。

4. Look at that ( ) chair.

正解：エ（**broken**） 完成した文： Look at that **broken** chair. 和訳： あの壊れた椅子を見なさい。

【解説】 分詞（現在分詞と過去分詞）の形容詞的な用法を問う問題です。

- chair（椅子）と break（壊す）の関係を考えます。椅子は自ら何かを「壊す（breaking)」のではなく、誰かによって「壊される（broken)」という受け身の関係です。
- したがって、「壊された（壊れた）椅子」と言う場合は、過去分詞を用いて **broken chair** とします。

5. My grandmother looks young ( ) her age.

正解：ア（**for**） 完成した文： My grandmother looks young **for** her age. 和訳： 私の祖母は年の割には若く見えます。

【解説】 前置詞の知識（熟語表現）を問う問題です。

- **for one's age** で「〜（年齢）の割には」という決まった表現（イディオム）です。
- 「for」には「〜を基準にすると」「〜の対価として」という意味合いがあり、「彼女の年齢を基準として考えると」＝「年の割には」という意味になります。

6. Ms. Smith is so kind that every student speaks ( ) of her.

正解：ア（**well**） 完成した文： Ms. Smith is so kind that every student speaks **well** of her. 和訳： スミス先生はとても親切なので、すべての生徒が彼女を褒めます（よく言います)。

【解説】 熟語の知識と、形容詞・副詞の区別を問う問題です。

- **speak well of** 〜 で「〜のことを良く言う、褒める」という重要な熟語です。(反対語は speak ill of 〜：〜の悪口を言う)
- 動詞の speak を修飾するためには副詞が必要です。選択肢の中で「良く」という意味を持つ副詞は well です。good は形容詞（良い）なので、動詞を直接修飾することはできません。

7. I will not go on a picnic if it ( ) tomorrow.

正解：ア（**rains**） 完成した文： I will not go on a picnic if it **rains** tomorrow. 和訳： もし明日雨が降れば、私はピクニックには行きません。

【解説】 時や条件を表す副詞節のルールを問う問題です。

- 「明日（tomorrow)」のことであっても、**if**（もし〜なら）や **when**（〜する時）で作られる「条件・時を表す副詞節」の中では、未来のことでも現在形を使うという重要な文法ルールがあります。
- したがって、未来形（will rain）ではなく、三人称単数現在形の **rains** を選びます。
- ※主節（I will not go〜 の部分）は未来の話なのでそのまま will を使います。

8. Mt. Fuji is higher than ( ) other mountain in Japan.

正解：イ（**any**） 完成した文： Mt. Fuji is higher than **any** other mountain in Japan. 和訳： 富士山は日本の他のどの山よりも高いです。

【解説】 比較級を使って最上級の意味を表す重要構文です。

- 比較級 **＋than any other＋** 単数名詞 で「他のどの〜よりも**…**だ（＝一番**…**だ)」という意味になります。
- ここでのポイントは、other の後ろが複数形の mountains ではなく、単数形の **mountain** になることです。「他のどの山（1 つ 1 つ）と比べても」というニュアンスがあるため、any other＋ 単数名詞 となります。

4

(1) ア：**is it**

B: Yes, where (**is it**) going to be held?

- 解説**:** A の "Are you going to the meeting tomorrow?" に対して、B が「その会議はどこで開催されるの？」と尋ねています。主語は the meeting（= it）です。「〜で開催される予定」は be going to be held となるため、疑問文の語順にして where is it going to be held? が正解です。
- 間違いの選択肢**:** ウの will it be を入れると "where will it be going to..." となり、助動詞と be going to が重複して不自然になります。

(2) ア：**of ours**

A: At the home of a friend (**of ours**) near here.

- 解説: 「私たちの友人の一人」という表現です。名詞の前に a がついている場合、a our friend とは言えず、a friend of ours（二重所有格）の形をとる必要があります。
- 間違いの選択肢: ウの of us は不可。イの our's という単語は存在しません。

(3) イ：**What time**

B: (**What time**) is it going to start?

- 解説: A が次の文で「about 8:30（8 時 30 分ごろ）」と時間を答えているため、時間を尋ねる What time が入ります。

(4) イ：**gets**

A: If everyone (**gets**) there on time, about 8:30.

- 解説: ここには重要な文法ルールが 2 つ含まれています。

1. 時・条件を表す副詞節: If（もし〜なら）の中では、未来のことでも現在形を使います（ウ・エは不可）。

2. **everyone** の扱い: everyone は意味的には複数ですが、文法上は単数扱いになります。したがって、動詞には三単現の s が必要です（アの come は不可）。 よって、単数・現在形の gets が正解です。

(5) ウ：**talk**

B: What are we going to (**talk**) about?

- 解説: 「何について話し合う予定ですか？」という文です。後ろに about があることに注目してください。talk about ~ で「〜について話す」となります。
- 間違いの選択肢: アの discuss は他動詞なので、直後に about を置きません（例: discuss the problem）。say や tell は通常、具体的な発言内容や相手を目的語にとるため、ここでは不適切です。

(6) ウ：**old enough for**

A: They're not (**old enough for**) school...

- 解説: 「学校に通うには十分に年齢が大きくない（＝幼すぎる）」という意味です。
  - 語順: enough は形容詞を修飾するとき、必ず後ろから修飾します（old enough）。この時点でアとイは消えます。
  - 前置詞 **vs** 不定詞: 後ろに続く "school" は名詞なので、前置詞の for を使います。もし後ろが動詞（go to school など）であれば、old enough to になります。

(7) エ：**with**

A: We must find someone (**with**) a big garden...

- 解説: 「大きな庭のある人（大きな庭を持っている人）を見つけなければならない」という文です。前置詞の with には「〜を持っている、〜のある」という意味があります。
- 間違いの選択肢: 関係代名詞を使うなら who has a big garden なら正解ですが、ウは have と複数形になっているため、単数の someone と一致せず間違いです。イは先行詞が「人」なので which が使えません。

(8) ア：**after**

A: ...and can look (**after**) them.

- 解説: 子供たちの「世話をする」という意味の熟語を作る前置詞が問われています。look after ~ で「〜の世話をする」という意味になります。

(9) エ：**None**

B: (**None**) of my friends has a big garden,

- 解説: 「私の友達の中には、大きな庭を持っている人は（一人も）いない」という全否定の文です。None of ~ で「〜のうち誰も…ない」となります。
- 間違いの選択肢: No one は単独で「誰も〜ない」として使いますが、No one of ~ という形はとりません。

(10) ウ：**I'll come**

B: ...but (**I'll come**) to the meeting.

- 解説: （庭を持っている友達はいないけれど）「私はその会議に行きますよ」と、今その場で決めた意志を伝えています。その場で決めた未来の行動や意志表示には will（I'll）を使います。

5

空所 **[1]** の解説

正解：イ **to hear**

- 解説: 「あなたが病気で寝ていると聞いてとても驚きました」という文脈です。be surprised to ~ で「〜して驚く」という感情の原因を表す不定詞（副詞的用法）になります。
- 文意: I was very surprised **to hear** that you were sick in bed.（あなたが病気で寝ていると聞いてとても驚きました。）

- 他の選択肢: アは原形、ウは過去形・過去分詞形、エは動名詞・現在分詞ですが、surprised の後に直接これらを置くことはできません。

空所 **[2]** の解説

正解：ウ **How**

- 解説: 相手の体調や気分を尋ねる時の決まり文句です。「気分はどうですか？」と状態を尋ねる疑問詞は **How** を使います。
- 文意: **How** do you feel today?（今日の気分はどうですか？）
- 他の選択肢: What（何）、Why（なぜ）、When（いつ）では意味が通りません。

空所 **[3]** の解説

正解：イ **better**

- 解説: 比較級の強調の文法です。直前に much（ずっと）があるのが大きなヒントです。much は比較級を強調する言葉なので、後ろには比較級が来ます。また、「(前より）気分が良い」は feel better と表現します。
- 文意: I feel much **better**, thank you.（ずっと気分が良いわ、ありがとう。）

空所 **[4]** の解説

正解：ア **What**

- 解説: 「お医者さんは何と言っていますか？」と、医者の発言内容（目的語）を尋ねる文です。「言う」という動詞 say の内容を聞くため、疑問代名詞の **What** が正解です。
- 文意: **What** does the doctor say?（お医者さんは何と言っていますか？）

空所 **[5]** の解説

正解：ウ **caught**

- 解説: I've は I have の短縮形です。文脈から「ひどい風邪をひいてしまった（今もひいている)」という現在完了形（have ＋ 過去分詞）だとわかります。catch a cold（風邪をひく）の過去分詞形である **caught** が正解です。
- 文意: He says I've **caught** a bad cold.（お医者さんは、私がひどい風邪をひいたと言っています。）

空所 **[6]** の解説

正解：ウ **a few**

- 解説: 「数日でよくなる」という表現です。後ろの days は数えられる名詞（可算名詞）の複数形です。
  - **a few** ＋ 複数形 ＝ 「少しの〜、2〜3 の〜」（肯定的な意味）
  - **few** ＋ 複数形 ＝ 「ほとんど〜ない」（否定的な意味）
  - a little / little は数えられない名詞（不可算名詞）に使うため不可。
- 文意: No, he says I'll be all right in **a few** days.（ううん、数日で治るだろうって。）

空所 **[7]** の解説

正解：エ **in**

- 解説: 「健康状態が良い・完璧だ」は前置詞 in を用いて **in good/perfect health** と表現する熟語です。
- 文意: Don't worry. I'm **in** perfect health.（心配しないで。私はすこぶる健康だから。）

空所 **[8]** の解説

正解：イ **going**

- 解説: I must be going. で「もうおいとましなければなりません（帰らなければなりません)」という、訪問先を辞去する際の決まり文句です。be going と進行形にすることで、「そろそろ帰る方向に動き出さなければ」というニュアンスが出ます。
- 文意: Well, I must be **going**. Please take care of yourself.（さて、もう行かなくちゃ。お大事にね。）

空所 **[9]** の解説

正解：エ **coming**

- 解説: お見舞いに来てくれたメアリーに対するケイトのお礼です。Thank you for ~ing で「〜してくれてありがとう」となります。自分のもとへ「来てくれた」ので、動詞は **come** の動名詞形である **coming** を使います。
- 文意: Thank you for **coming**, Mary.（来てくれてありがとう、メアリー。）

対話文の和訳（全体を通した確認）

メアリー: あなたが病気で寝ていると聞いてとても驚いたわ。今日の気分はどう？ ケイト: ずっと良くなったわ、ありがとう。 メアリー: お医者さんは何て言ってるの？ ケイト: ひどい風邪をひいているって。 メアリー: それはお気の毒に。本当に悪いの？ ケイト: ううん、数日ですっかり良くなるって。来週はテニスの練習ができるといいな。 メアリー: 私もそう願っているわ。でも無理しないでね。 ケイト: そうね。でも昨日は一日中寝ていなきゃいけなくて、ちょっと退屈だったの。 メアリー: 元気づけようと思って、お花を持ってきたのよ、ケイト。 ケイト: ああ、本当にありがとう。 メアリー: 今朝、うちの庭で母が摘んでくれたの。 ケイト: 私の風邪がうつらないといいけど。 メアリー: 心配しないで。私は

すこぶる健康だから。 ケイト: それを聞いて安心したわ。 メアリー: さて、もう行かなくちゃ。お大事にね。 ケイト: 来てくれてありがとう、メアリー。

Section 3

1

1. 手伝ってくれてありがとう。

It **[was kind of you to help me.]**

（※現在形で It is kind of you to help me. でも正解となります）

【解説】

「ありがとう」と言うと Thank you for ~ing. を思い浮かべがちですが、文の書き出しが **It** で始まっているのがこの問題の最大のヒントです。

ここでは、**It is [**形容詞**] of [**人**] to [**動詞の原形**]**（～するとは［人］は…だ） という構文を使います。

- 直訳: 私を手伝ってくれるとは、あなたは親切ですね。
- 意訳: 手伝ってくれてありがとう。

相手の性質や性格（ここでは kind：親切な）を表す形容詞を使う場合、意味上の主語を表す前置詞は for ではなく **of** になるのがテストでよく狙われるポイントです。

2. 彼女はその本を読み終えるのに **30** 分かかった。

It **[took her thirty minutes to finish reading the book.]**（※ 30 分は 30 minutes や half an hour でも可。finish の後ろは the book だけでも通じますが「読み終える」のニュアンスを出すため reading を入れるのが自然です）

【解説】

時間やお金が「かかる」という表現は英語の必須構文です。

ここでは、**It takes [**人**] [**時間**] to [**動詞の原形**]**（［人］が～するのに［時間］がかかる） を使います。

- 時制に注意: 「かかった」と過去形になっているため、take の過去形である **took** を使います。
- **finish ~ing:** 「読み終える」は finish reading（動名詞）を使います。finish の後ろに不定詞（to read）は置けないルールも併せて覚えておきましょう。

3. 私たちの学校は **8** 時 **45** 分から始まります。

Our **[school starts at 8:45.]**（※ starts は begins でも正解です。数字は eight forty-five と綴っても構いません）

【解説】

- 主語と動詞の呼応: 主語の Our school は「3 人称・単数」です。したがって、現在形の動詞には必ず **s** をつけて starts または begins としなければなりません。
- 「～から」の前置詞: 日本語の「8 時 45 分から」につられて from 8:45 と書きたくなりますが、英語では特定の時刻（点）を表す場合、前置詞は必ず **at** を使います（○ at 8:45 / × from 8:45）。

4. カナダでは何語が話されていますか。

What **[language is spoken in Canada]**?

【解説】

「何語」という疑問詞のカタマリと、「～される」という受動態（受け身）を組み合わせた文です。

- 疑問詞のカタマリ: 「何語」は What language とセットで文頭に置きます。
- 受動態（**be** 動詞 ＋ 過去分詞）: 「話されている」ので受け身を使います。言語が主語になるため、speak の過去分詞 **spoken** を使い、is spoken となります。

疑問文なので、疑問詞 What language の直後に is が来る語順になります。

5. あなたはそのパーティーがいつ始まるか知っていますか。

Do you **[know when the party starts]**?（※ starts は begins でも正解です）

【解説】

この問題のテーマは 間接疑問文 です。

「パーティーはいつ始まりますか？（When does the party start?）」という疑問文が、「あなたは知っていますか？（Do you know?）」という別の文の中に組み込まれると、語順が変わります。

- 間接疑問文の語順: 疑問詞 ＋ 肯定文の語順（主語 ＋ 動詞）
- 当てはめ: when(いつ) + the party(主語) + starts(動詞) となります。

ここでも 3 人称単数の **s**（starts）を忘れないように注意が必要です。元の疑問文にあった does は消滅し、動詞に s が復活します。

2

（**1**）最寄りの銀行へ行く道を教えてくれませんか

- 模範解答: Could you tell me the way to the nearest bank?
- 別解: Can you tell me how to get to the nearest bank?

- 解説:
  - 丁寧な依頼: 見知らぬ人に道を尋ねるため、Could you ...? や Can you ...? を用いるのが適切です。より丁寧に言うなら Would you tell me ...? も使えます。
  - 「〜への行き方」: the way to + 名詞（〜への道）または how to get to + 名詞（〜へ到達する方法）で表現します。
  - 「最寄りの」: 「最も近い」という意味の形容詞 near の最上級 the nearest を使って the nearest bank と表します。

（**2**）**2** 番目の角を左に曲がってください

- 模範解答: Turn left at the second corner.
- 別解: Take the second corner to the left. / Take the second left.
- 解説:
  - 文の構造: 直前の Go straight down this street. And... を受けているため、動詞の原形で始まる命令文（Turn...）にします。丁寧さを足したい場合は文頭に Please を付けても構いません。
  - 「左に曲がる」: turn left が最も一般的です。
  - 「**2** 番目の角で」: 序数（first, second, third...）を用いて at the second corner と表現します。また、Take the second left.（2 番目の左の道を曲がってください）という口語表現も非常によく使われます。

（**3**）そこまで歩いてどのぐらいかかりますか

- 模範解答: How long does it take to walk there?
- 別解: How long does it take to get there on foot?
- 解説:
  - 所要時間を尋ねる: 「時間がかかる」を表す動詞 take と形式主語 it を組み合わせた How long does it take ...?（どれくらい時間がかかりますか）が定型表現です。
  - 「歩いてそこへ行く」: 「歩いて行く」は walk（動詞）または on foot（前置詞句）で表します。「そこへ」は副詞の there を使うため、to walk there や to get there on foot（there の前に to は不要）となります。

完成した会話文の全訳

A: すみません、道に迷ってしまいまして。最寄りの銀行へ行く道を教えてくれませんか。 B: いいですよ。この道をまっすぐ行って、2 番目の角を左に曲がってください。そうすれば右側に見えますよ。すぐ分かります。 A: そこまで歩いてどのぐらいかかりますか。 B: そうですね、10 分くらいです。 A: 助かりました、ありがとうございます。 B: どういたしまして。

3

1. 歯をみがかないで寝てはいけません。

- 解答例**:** You must not go to bed without brushing your teeth.
- 解説**:**
  - 禁止表現**:** 「〜してはいけない」は強い禁止を表す must not や、命令形の Don't go to bed... を用います。
  - 就寝の表現**:** 「寝る（床につく）」は go to bed や go to sleep で表現します。
  - 付帯状況の前置詞**:** 「〜しないで」は前置詞 without + 動名詞（-ing）を使って without brushing とします。
  - 所有格の一致**:** 「歯をみがく」は brush one's teeth ですが、主語が You なので your teeth と所有格を合わせます。

2. 明日雨が降ったら、私は家にいます。

- 解答例**:** If it rains tomorrow, I will stay home.
- 解説**:**
  - 時・条件を表す副詞節**:** if 節内では、未来の出来事であっても現在形（rains）を使うルールがあります。If it will rain としないよう注意が必要です。
  - 主節の時制**:** 実際の出来事は未来のことなので、主節には will を用いて I will stay とします。
  - 天候の **it:** 天気や天候を表す文では、意味を持たない形式上の主語 it を立てます。

3. 駅に着いたら私に教えてください。

- 解答例**:** Please let me know when you arrive at the station.
- 解説**:**
  - 時を表す副詞節**:** when 節内も if 節と同様に、未来のことでも現在形（arrive や get）を用います。

- 「教える」の表現: 単に情報を伝えるだけでなく「(到着したら) 知らせてほしい」という意味なので、let me know（私に知らせる）を使うのが非常に自然です。tell me でも間違いではありません。
- 到達を表す前置詞: arrive は地点を表す前置詞 at を伴って arrive at the station となります（get to the station も可）。

4. 長い間お待たせしてごめんなさい。

- 解答例: I am sorry to have kept you waiting for a long time.
- 別解: I am sorry for keeping you waiting for so long.
- 解説:
  - 謝罪の文型: 「〜してごめんなさい」は I am sorry to V または I am sorry for Ving で表します。
  - 「人を待たせる」: keep + 目的語 + 現在分詞（keep you waiting）で「人を待たせ続ける」という意味になります。
  - 時制のズレ: 「謝っている時点」よりも「待たせたこと」の方が過去の出来事であるため、完了不定詞 to have kept や、前置詞の後に動名詞 for keeping を使って時間のズレを表現します。

5. 父はよく私に、「世界で何が起こっているかを知るために、新聞を読みなさい」と言います。

- 解答例: My father often says to me, "Read the newspaper to know what is happening in the world."
- 解説:
  - 伝達動詞: 相手を指定して「〜と言う」場合、say to 人 を用います（tell 人 を使う場合は引用符を使わない間接話法にするのが一般的です）。
  - 引用符内の命令文: 鍵かっこ内は直接語りかけているため、動詞の原形から始まる命令文 Read... にします。
  - 目的の不定詞: 「〜するために」は副詞的療法の不定詞 to know（または to find out）を使います。
  - 間接疑問文: 「何が起こっているか」は what 自体が主語となり、what is happening（または what is going on）という語順になります。

6. 思ったよりも宿題が早く終わった。

- 解答例: I finished my homework earlier than I expected.
- 別解: My homework was finished sooner than I thought.
- 解説:
  - 発想の転換: 日本語では「宿題が〜終わった」と無生物が主語のように見えますが、英語では「私が宿題を終わらせた（I finished my homework）」と人を主語にすると自然な文になります。
  - 比較級: 「より早く」は副詞 early の比較級 earlier（または sooner）を用います。
  - 「思ったよりも」: <比較級> + than I expected や than I thought という定型表現を使います。「期待していた/思っていた」のは終わった時点と同等かそれ以前のことなので、過去形 expected で表します。

7. テレビをつけっぱなしで寝てしまった。

- 解答例: I fell asleep with the TV on.
- 解説:
  - 「寝てしまう」: 無意識に眠りに落ちるニュアンスは fall asleep（過去形は fell asleep）で表します。
  - 付帯状況の **with**: 「〜を…の状態にしたままで」は **with** + 目的語 + 補語 の構文（付帯状況の with）を使用します。
  - 状態を表す副詞: テレビなどの電化製品が「ついている」状態は副詞の on で表すため、with the TV on となります。

8. この財布はどこで拾ったのですか。

- 解答例: Where did you find this wallet?
- 別解: Where did you pick up this wallet?
- 解説:
  - 「拾う」の英語: 日本語の「拾う」は、英語では「見つける」を意味する find を使うのが最も一般的です。実際に地面から手で拾い上げる動作を強調したい場合は pick up を使います。
  - 疑問文の構造: 過去の行動を尋ねる一般的な疑問文なので、Where did you + 動詞の原形...? の形で組み立てます。

4

1. トムのおじいさんは **98** 歳まで生きた。
   - 完成文: Tom's grandfather lived to be ninety-eight.
   - 解説: 「生きて〜歳になる（＝〜歳まで生きる）」を表すには、不定詞の結果用法を用いた慣用表現 **live to be +** 年齢 を使います。指定された to の後ろに be（動詞の原形）と数字を補うことで、「98 歳になるまで生きた」というニュアンスを表現できます。
2. 彼女はきっとここに来るでしょう。
   - 完成文: She is sure to come here.
   - 解説: 話者の確信を表す **be sure to +** 動詞の原形（きっと〜する）の構文を利用します。主語 She に合わせて be 動詞の is を補い、to の後ろに「ここに来る」を意味する come here を続けます。
3. 私は早起きに慣れていない。
   - 完成文: I am not used to getting up early.
   - 解説: 「〜に慣れている」を表す熟語 **be used to +** 動名詞 / 名詞 を使います。
     - 「慣れていない」と否定にするため、be 動詞の直後に not を補います（am not used to）。
     - この to は前置詞なので、後ろに続く動詞は原形ではなく動名詞 **getting up** にする必要があります。
4. その箱を一番上の棚に置いておいてください。
   - 完成文: Will you leave the box on the top shelf?（または Will you put...）
   - 解説: 相手に指示や依頼をする **Will you +** 動詞の原形 **...?**（〜してくれますか）の形を作ります。
     - 「〜をそのままの状態にしておく」は動詞 leave（または「置く」意味の put）を使います。
     - 「一番上の棚に」は前置詞 on を用いて **on the top shelf** と表現します。
5. 今、ボブを除いて全員到着しました。
   - 完成文: Everyone but Bob has arrived now.
   - 解説: 指定語の but は前置詞として使うと「〜を除いて（except）」という意味になります。
     - 「ボブを除いた全員」を意味する **Everyone but Bob** を主語にします。
     - Everyone は単数扱いのため、現在完了形の助動詞は have ではなく **has** を用い、has arrived now と繋げます。
6. 彼と仲良くやっていくのはとても難しい。
   - 完成文: It is very difficult to get along with him.
   - 解説: 形式主語構文 **It is +** 形容詞 **+ to +** 動詞の原形（〜することは…だ）を使用します。
     - 「〜と仲良くやっていく」は慣用表現 **get along with ~**（または get on with ~）で表します。
     - It is very difficult の後に to と指定語 get をつなげ、真の主語を作ります。
7. 彼はどうしてもそのドアを開けようとはしなかった。
   - 完成文: He would not open the door.
   - 解説: 過去の強い拒絶を表す **would not +** 動詞の原形（どうしても〜しようとしなかった）を使います。
     - 否定の指定語 not の前に過去の助動詞 would を補い、動詞の原形 open と目的語 the door を続けます。

5

(1) [年の暮れには、人はその年の良かったことと悪かったことを振り返ります。**]**

1. 「年の暮れには」
   - **At the end of the year,** が最もシンプルで標準的な表現です。
   - 文頭に置く場合は、カンマ（ , ）を忘れないようにしましょう。
   - 少しニュアンスを変えて「年の瀬が近づくと」とするなら、*Toward the end of the year,* とすることも可能です。
2. 「人は〜を振り返ります」
   - 主語の「人」: 一般論を述べているので、**people** または **we** を使います。
   - 「振り返る」: 熟語 **look back on** 〜 を使うのが最も簡単です。少しフォーマルな表現である **reflect on** 〜（〜を熟考する、振り返る）を使うと、より知的な文章になります。
3. 「その年の良かったことと悪かったこと」
   - **the good and bad things of the year**（その年の良いことと悪いこと）

- **the good and the bad of the past year**（過去 1 年間の良いことと悪いこと）:「the ＋ 形容詞」で「〜なこと」を表す用法です。
- **what was good and what was bad during the year**：関係代名詞 what（〜なこと）を用いた表現です。
- 注意点: "the year's good things and bad things" とすると少し不自然に聞こえることがあります。前置詞 of や during を使って「その年の」を後ろから修飾する形にするのが無難です。

(2)

[その年したことに満足する人はほとんどいません。**]**

1. 「〜する人はほとんどいません」

否定の副詞や代名詞を使うのがポイントです。間違っても "Many people don't ~" のような不自然な形にしないことが重要です。

- **Few people** are ~（〜な人はほとんどいない）：可算名詞につく few は「ほとんど〜ない」という否定の意味になります（a few は「少しある」なので絶対に使わないこと）。
- **Almost no one** is ~ / **Hardly anyone** is ~：これらも「ほとんど誰も〜ない」という強い否定を表せます。no one や anyone を主語にする場合は、動詞は単数扱い **(is / has)** になることに注意してください。

2. 「〜に満足する」

- 熟語 **be satisfied with** 〜 を使います。これは確実に取りたい基礎知識です。
- または、be happy with 〜 や be pleased with 〜 などでも意味は通じます。

3. 「その年（に）したことに」

- **what they have done during the year**（彼らがその 1 年間でしてきたこと）：現在完了形にすることで、「1 年間通して積み上げてきたこと」というニュアンスが出ます。
- **what they did that year**（その年にしたこと）：過去形でも問題ありません。
- 注意点: "what they did **the** year" とすると「その年」のニュアンスが弱くなります。"during the year"（その 1 年の間）や "that year"（その年）とするのが自然です。また、what を使わずに "the things which they have done" としても正解ですが、what を使った方がすっきりとまとまります。

6

1. 世の中で成功するためには、犠牲にしなければならないこともあります。

【模範解答】

- **To succeed in life, you have to sacrifice some things.**
- **In order to be successful in the world, there are some things you must sacrifice.**

【解説】

- 世の中で成功するためには： 「成功する」は succeed (動詞) または be successful (形容詞) を使います。「世の中で」は直訳の in the world でも良いですが、英語の決まり文句として **in life**（人生において・世の中で） を使うと非常に自然です。
- 犠牲にしなければならないこともある： 日本語には主語がありませんが、一般の人を表す you や we を主語にするのが英語の基本です。「犠牲にする」は sacrifice です。
  - you have to sacrifice some things (いくつか犠牲にしなければならない)
  - there are some things (which) you have to sacrifice (犠牲にしなければならないこともある) と関係代名詞を使って表現するのも上手な方法です。

2. 体重を減らしたいのなら、毎日もっと歩くことを私はあなたに勧めます。

【模範解答】

- **If you want to lose weight, I advise you to walk more every day.**
- **I recommend that you walk more every day if you want to lose weight.**

【解説】

- 体重を減らす： lose weight という決まった言い方を使います。反対の「体重が増える」は gain weight または put on weight です。
- 〜することを勧める： ここがこの問題の最大のポイントです。使う動詞によって形が変わります。
  - **advise** を使う場合： advise O to do（O に〜するように忠告する・勧める）の形をとります。
  - **recommend** を使う場合： recommend O to do という形は取れません。recommend doing または **recommend that S (should)** 動詞の原形 となります。

3. 今年の冬は **2** 回も風邪をひいてしまい、健康のありがたみがよくわかりました。

【模範解答】

- **I caught a cold twice this winter, which made me realize the value of health.**

- **Because I caught a cold twice this winter, I truly realized how important health is.**

【解説】

- 風邪をひいてしまい： 「風邪をひく」は catch a cold です。「今年の冬」は this winter。
- 健康のありがたみがよくわかった： 「ありがたみ」をどう訳すかが鍵です。直訳しようとせず、「健康の価値 (the value of health) に気づいた」や、「健康がいかに重要か (how important health is) を実感した」と言い換えます。「よくわかる（実感する）」は realize や appreciate が適しています。
- 構文の工夫： 前半の文全体を先行詞とする関係代名詞 which を使い、..., which made me realize ~（そのことが私に〜を実感させた）という無生物主語の構文を使うと、非常に洗練された英語になります。

4. 英語を話せるようになりたいと思っている人は多いが、相手に伝えるべき知識を身につけることが先決である。

【模範解答】

- **Many people want to be able to speak English, but it is more important to acquire the knowledge to share with others first.**
- **A lot of people hope to communicate in English, but the first thing to do is to gain the knowledge you should convey to others.**

【解説】

- 〜と思っている人は多い： Many people want to ~ とシンプルに表現するのが一番ミスが少ないです。
- 相手に伝えるべき知識： 「身につける」は acquire や gain などの動詞を使います。「知識」は knowledge。「相手に伝えるべき」は不定詞の形容詞的用法を用いて knowledge to share with others (他人と共有すべき知識) や knowledge to convey to others と表現します。
- 先決である： 「先決」という難しい日本語を平易な英語に変換します。
    - it is more important to ~ first (まず〜する方が重要である)
    - the first thing to do is to ~ (最初にすべきことは〜することである)

5. 日本を発つ前にアメリカのことをいろいろ学びましたが、実際に来てみると、学んだことと違うことが多いのに驚いています。

【模範解答】

- **I learned a lot about America before leaving Japan, but now that I am actually here, I am surprised that many things are different from what I learned.**
- **Before I left Japan, I learned a lot of things about the US. However, when I actually came here, I was surprised to find that many things are different from what I had learned.**

【解説】

- 日本を発つ前にアメリカのことをいろいろ学びました： before leaving Japan または before I left Japan。「いろいろ学ぶ」は learn a lot (of things) about ~ で十分伝わります。
- 実際に来てみると： when I actually came here でも良いですが、**now that I am actually here (**実際に今ここにいるので**)** という接続詞 now that ~ を使えると表現の幅が広がります。
- 学んだことと違うことが多いのに驚いています： 「〜に驚く」は be surprised that S V の形を使います。「違うことが多い」は many things are different。「学んだこと」は関係代名詞 what を使い what I learned または what I had learned (大過去) と表現します。different from what I learned (学んだことと異なっている) という形を正確に作れるかがポイントです。

7

（**1**）自分が楽しい思いをすれば、この楽しさをみんなにも味わってほしいと考える

【アプローチと構文選び】

- 「自分が楽しい思いをすれば」: When[If] we feel happy / When we have a good time / When we enjoy ourselves
- 「〜と考える」: ここは「〜と思う」「〜したいと思う」という意味合いなので、無理に think を使わずに want 人 to do （人に〜してほしい）を使うとスッキリします。
- 「この楽しさをみんなにも味わってほしい」: we want everyone (else) to share this feeling / we want others to experience this joy

【語句のポイント】

- 味わう：食事ではないので taste は不適切です。「（喜びなどを）経験する」の **experience** や、「（感情を）共有する」の **share** を使うのがベストです。
- みんなに：everyone (else) や other people, others などが適しています。

【解答例】

- 標準**:** When we feel happy, we want everyone else to share this feeling.

- 別解**:** If we enjoy ourselves, we want others to experience this joy too.

（**2**）人が楽しそうな顔をしていれば、自分まで楽しい気分になる

【アプローチと構文選び】

- 「人が楽しそうな顔をしていれば」:「楽しそうな顔をする」を make a happy face と直訳すると不自然です。「幸せそうに見える」と言い換えて、When someone looks happy や When we see someone looking happy（人が幸せそうにしているのを見る時）とすると自然な英語になります。
- 「自分まで楽しい気分になる」: we feel happy too / we also feel happy / it makes us feel happy too（それが私たちをも幸せな気分にさせる）

【語句のポイント】

- 人：特定の誰かではないので、someone, a person, other people, others などを文脈に合わせて使います。
- ～な気分になる：feel happy / feel joyful / feel good などのシンプルな表現で十分に伝わります。

【解答例】

- 標準**:** When we see someone looking happy, we also feel happy.
- 別解**:** If other people look happy, it makes us feel happy too.

（**3**）もし他人の笑顔で腹が立つという人がいるとしたら、その人は自分自身に不満を抱えている

【アプローチと構文選び】

- 「もし～という人がいるとしたら」: If there is someone who... や、シンプルに If someone...（もし誰かが～なら）で始めます。
- 「他人の笑顔で腹が立つ」: get angry at others' smiles / get angry when they see other people smiling.（他人の笑顔を見て腹を立てる、と読み替えます）
- 「その人は自分自身に不満を抱えている」: they are dissatisfied with themselves / that person is unhappy with himself or herself. ※someone を受ける代名詞は、現代英語では単数扱いの they/them/themselves を使うのが一般的です（he or she でも可）。

【語句のポイント】

- 腹が立つ：get angry / get mad / feel annoyed など。
- 不満を抱えている：be dissatisfied with ~ や be unhappy with ~、または be frustrated with ~（～にフラストレーションを感じている）といった熟語がぴったりです。

【解答例】

- 標準**:** If there is someone who gets angry at other people's smiles, they are dissatisfied with themselves.
- 別解**:** If someone gets annoyed when seeing others smile, that person is frustrated with themselves.